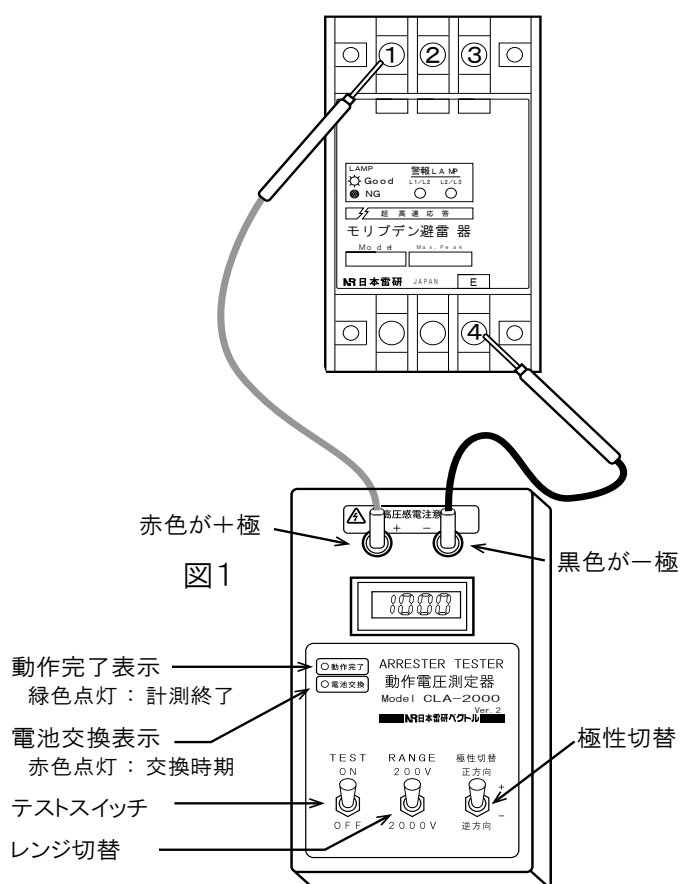


## ●端子配列と結線図



### チェッカーの動作について

チェッカーCLA-2000のは1mA以下の電流制限付きです。  
1mAを超えた時点で、数値をホールドして素子への電圧印加を停止します。  
TESTスイッチをOFFにするまで表示します。

### ●点検前のご注意

- ① 電源ブレーカを開または開閉器(DS)を切り放して下さい。
- ② 感電にご注意下さい。  
TESTスイッチをONにしているとき、出力の電極を素手で触れないで下さい。
- ③ メータのサンプリング周期により読み取り誤差があります。  
2～3回程度おこなって下さい。

### ●点検後・・・新品交換待ちになった場合

- ① 劣化と判断した場合であっても電源・信号に支障がなければ、新品交換まで付け戻して下さい。  
交換までの雷サージ対策となります。

## ●素子の良否判定

- ① 測定する素子の動作電圧に合わせてRENJE(レンジ)を切り替えて下さい。
- ② 極性切替スイッチは通常正方向を定位置にして下さい。(極性切替時使用します)
- ③ チェッカーCLA-2000のテストピン(またはクリップ)を下表端子番号に合わせて接続して下さい。
- ④ TESTスイッチをONに投入して下さい。
- ⑤ 指示値が下表の範囲内は正常、範囲外は劣化(不良)と判定します。

### <3線式交流電源用避雷器>

各素子	測定端子間	端子番号 +極/-極	印加電圧 (レンジ)	確認内容 下記の範囲であること	故障モード (通常)
M1	L1/E	①/④ ※1	2000V	DC900-1800V ※2	SHORT
M2	L2/E	②/④	2000V	DC900-1800V ※2	SHORT
M3	L3/E	③/④ ※1	2000V	DC900-1800V ※2	SHORT
LEDテスト	L1/L2	①/②	200V	印加時に点灯すれば正常	消灯(ヒューズ切れ)
LEDテスト	L3/L2	③/②	200V	印加時に点灯すれば正常	消灯(ヒューズ切れ)

※1 極性切替スイッチで逆方向の確認もおこなって下さい。

※2 範囲以下でも自復作用があり、支障なければ使用可能です。ただし、350V以下の場合には交換をお奨めします。